

2014 年 (平成 26 年)

新春号

[第 23 号]

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

発行 東京鉄構工業協同組合
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
-0032 TEL: 03 (5566) 1595
FAX: 03 (5566) 1597

写真
J R ・ 東京駅

繁忙期こそ腹八分目

理事長 飯田 歳樹

新年あけましておめでとうございます。

組合員、協力会の皆様におかれましては、暗くて長かったトンネルのなかにも、ようやく出口の薄明かりが見えた新年を迎えることができたのではないかと、大変喜んでおります。

世界的には異常気象による大災害が多数起り、尊い人命が失われ、住環境が破壊されているのが現状です。これらすべては地球環境の悪化からだと思われま。われわれも、今ここで地球環境に配慮しながら経営すること

を、再確認したいと思っております。

われわれの業界では、東京五輪、アベノミクス効果、震災復興、東京湾北部地震にそなえて、建築物の耐震補強および建て替え工事が目白押しに発注され、今後も仕事量は潤沢にあり、ファブにとってはバブルの再来と思えるほどの好環境になっています。今こそ底値の安値情報に振り回されることなく、会員各社が 80% 操業にて経営が可能な値戻しをするべきです。

客先に対しては、電気料金、鋼材、燃料の高騰の現状をご理解して頂き、

なおかつ支払条件の見直しを容認して頂くために、全力を尽くすべきではないでしょうか。

これからの企業経営は体力のある企業がアドバンテージを取れると思います。昨年はわれわれの将来を見据えて、東京、神奈川、千葉の一都二県で、「東京ベイスリー」を立ち上げました。今年はぜひ行政に災害時の B C P 案にて陳情活動を実施します。若手を中心にして行政に対して、ハッキリとした要望をし、中・長期を安定した事業計画ができる組織にするために努力いたしたいと思ひます。

今年はすべての面で良い方向に向かうよう、理事会、組合員、協会が一丸となり、一枚岩で邁進する決意です。どうか本年も引き続き組合活動に、ご理解と、ご協力のほどお願い申し上げます。

(飯田製作所社長)

組合理事役員 年頭のあいさつ

秋桜 (コスモス)



理事
相談役

池田 英敏

華麗に咲く一輪の花びらの風に舞う秋桜の姿は、楚々としてこの上なく心を和ませてくれる。私はこの情景がとても好きである。昭和 20 年代から 30 年代にかけて、畦道や路地の陽だまりに群生している秋桜を見かけることがあったが、今では遠い昔のような気がする。

毎年霜が降りなくなった 4 月中旬ごろより、各地の秋桜の種子を求め、収穫し保存していたものを、屋上の 20 鉢ほどのプランターに植え付ける。土壌は 4 カ月前から石灰で中和したものに、化学肥料と腐葉土を混合した土とする。基本としては、秋桜は日陰を嫌うので常に日当たりのよい場所を選定することが条件となる。

初めの 2、3 年はこのことが分らず花芽をつけずに枯らしてしまったこともあった。また初夏になると、土壌が乾燥してしまうので、毎日の朝の水やりが欠かせない。このことが 15 年前からの私の日課となっていて、初夏から初秋にかけての宿泊旅行はなるべく遠慮申し上げている。

秋桜はキク科の一年草で、原産地はメキシコである。まだ日本に入ってきて 100 年足らずの歴史しかなく、秋に咲く花卉が桜に似ているところから和名で「秋桜」という。花言葉に白色は乙女の純真・真心といわれ、ピンクは優美・美麗・純潔といい、赤色は乙女の愛情・調和。黄色は野生の美しさ、

自然の美という。どれをとっても女性の花だ。

毎年 8 月から 9 月下旬にかけて、関東平野のあちらこちらの秋桜街道を訪ねては、目の保養と種の収集、写真撮影へと楽しみに歩き回っております。特に八重咲き（ピンク色）の秋桜が秋風に吹き抜けて風に舞う姿は、この上なく美しいもので、しばし時のたつのを忘れてしまうぐらいです。

種子を植え付ける以外に、零れ落ちた種子から発芽し咲くことがあります。根が深く、茎も太く 2m を有に超すほどの背丈に育ちます。冬の厳寒に晒され冬越した秋桜は、逆境を乗り越えた人に似ているような気がします。

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」…毎年花は同じように咲くが、毎年人は変化、進化により同じではあり得ない。せめて花のように毎年同じように咲きたいこの気持ちは、私だけではなかるうかと思う今日この頃です。

(池田鉄工会長)



古代のロマン(記紀の路)



副理事長
総務・広報委員長

松田 清明

去年の 10 月半ば南九州を旅行しました。宮崎県の西都原古墳群をたずねました。大正元年から発掘され始め、よく整備された大小 300 余の円墳・前方後円墳等を見てまわりました。東西 2.6km、南北 4.2km、標高 50 ~

80m の洪積世台地上およびその周辺に 4 ~ 7 世紀初めにかけて築造されたと推定されております。まだ大部分ははまだ発掘されないまま古代の謎を秘めて千数百年もの時を眠り続けています。

まず宮崎県立考古博物館を見学し、職員の女性の案内で古墳の内部の立体映像や、数多くの副葬品をまじかに見ることができました。そのあと「このはな館」で自転車を借りて芝生の緑に覆われた路を案内係のボランティアのおじさんについて小 1 時間走りました。天気の良い日で古墳の間にはコスモスの花が咲き乱れておりました。考古館も自転車も案内人も全部無料ですよ。

天孫ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメの墓ともいわれております陵墓参考地、男狭穂塚・女狭穂塚は宮内庁管轄でコンクリート塀に囲われて中には入れませんでした。このあたり一帯は日向一族の伝承が、これでもかとはかりに溢れておりました。本当は出雲一族と日向一族との関わりまで書くつもりでしたが、タイムリミットとなってしまいました。機会がありましたらその時に…。

(松田鋼業社長)

「物件があってもファブがない」



副理事長
共済事業委員長
武田 忠義

われわれの鉄骨業界の昨年一年の需要動向を振り返ってみると、H グレードファブは一昨年位からの流通倉庫、店舗の仕事量が増加し、これがまさに地方に拡大した年ではなかったかと思う。通販産業が好調で、品揃えの必要性からマルチテナント型倉庫も増え、まさに「倉庫バブル」の形相をみせている。また、M や R グレードファブは

夏場以外でも耐震補強工事が増加、工場や駅舎、体育館などの仕事も多くなり、とくに消費増税の影響からか夏場以降は全国的に各社とも山積みが増え、Sグレードファブも東京や名古屋駅前などの大型再開発の本格始動によって急速に仕事が埋まり、すべてのグレードにおいて量的確保が図られたというのが一年間の全体的な流れである。

リーマン・ショック後の記録的な需要の落ち込みから5年が経過するなかで、Mグレードを中心に太陽光発電向け架台など建築鉄骨以外の製作分野への進出が目立つ一方、設備投資の手控えや新規採用の見送りなど必要人員を限界まで絞り込み、生産能力を縮小したファブも少なくない。需要が少し増加しただけで、受注を断る物件が目立ち、宙に浮く案件が散見されるのはこのためだ。自社の工場はフル稼働で山積みも埋まり、しかも製作の協力依頼をするファブも満杯状態で「物件があってもファブがない」という事態が生じている。ゼネコンも先の案件を見込んでファブの抱え込みに懸命だ。

東日本大震災の復興や東京五輪の関係が今後、本格化するなかで大型再開発の超高層ビルも具体化、景気回復に伴う民間の設備投資もより活発になってきている。今年は昨年よりも需要増加が見込まれ、個人的にはこうしたムードは大いに歓迎したいものの、またRC造への変更や工事延期などの深刻な課題も生まれる可能性がある。ただ、鋼材も品種によっては調達難となり、型枠工や燻・鍛冶、溶接工なども決定的に不足し、運送も手配に苦慮するなど建築全体の関連業種も多忙感の渦に巻き込まれている。われわれの業界と似た状況に置かれていることは想像に難くない。

需給に見合う発注量、平準化した仕事量の確保が理想であるが、経済社会は生き物である以上、われわれの思い通りにはならない。施主も発注者も施

工者も、広くは社会が、共通認識として業界の現状と課題を相互理解することが、今何よりも求められているのではないだろうか。(叶産業会長)

活字中毒者に花束を！



副理事長
経営近代化委員長
鈴木 貴久

好きな作家の作品はすべて読むのが基本。読破しちゃうともはや新作以外にないわけです、当然。残り少なくなると悲しいものです。ジャンルにこだわらない乱読系を自負しつつも、若手や新人にはどうも偏見があり、読みもせず嫌ってしまう、心の狭い私。そんな偏狭読者なため、新規作家の発見はホントにうれしい。だから、おお、金脈見つけた、と言う感じになるのですね。

昨年は大変月並みですが、あの、倍返しに池井戸潤でした。金融系は苦手でしたが、G C 談合の話「鉄の骨」で機会を得ました。ビジネス関連は高杉良だけであったので、収穫の年。逆に山崎豊子の訃報は新作を毎回とても期待してきた作家だけに非常に残念。心が揺さぶられ、感動させてもらった感謝の意味からも、今年は再読します。

SF 界の巨匠である P.K. ディックのように、年に一冊程度、じっくり楽しむ作家もいます。大作品の後に椎名誠のエッセイを挟んで、リラックスするのも好きなバランス。たまにはお稲荷さんも美味いよねっという感じです。

所謂積読という表現がありますが、家に数冊は未読の本がないと落ち着きを失い、イライラしてしまう活字中毒です。禁断症状にならないように頻繁に書店へ赴くことになります。書店でのウロウロは本当に充実。時の過ぎる感覚は、そう、マー جان レベルと言

えば、分かりやすいでしょうか。

雑誌も好きで、学生時代は創刊号だけは必ずチェックして、保存していました。創刊号は出版社が社運を賭けた、編集長の思いが色濃く反映されるエネルギーの塊です。そしてなぜか、時間の経過とともにパワーを失ってしまう、まるで生き物の様で興味深いのです。あっ、『鋼構造ジャーナル』だけは違うけど(汗)

(那須ストラクチャー工業社長)

読書の楽しみ



副理事長
教育・技術委員長
中川内 伸吉

昨年は、ここ数年続いた景気の停滞感がかなり払しょくされ、世の中が非常に明るい雰囲気になってきましたが、われわれファブリケーターが民間企業の設備投資などの形で景況好転の手応えを得るまでには至っていません。本年こそは、景気回復や震災の復興が実感として身近かに感じられる一年であってほしいと思います。

さて、私の趣味の一つに「読書」があり、好きなジャンルは、経済小説やミステリー等々です。最近、経済小説ではテレビドラマ「半沢直樹」の原作となった『オレたちバブル入行組』をはじめとする池井戸潤の小説シリーズなどが注目を集めました。ドラマがかなり面白かっただけに、原作本の方も気になるところです。

皆さんは本屋さんにごらりと立ち寄って本を選ぶ時、何を基準に選ぶのでしょうか。すごく迷うのではないかと思います。自分の場合、平積みになっているか(新刊もしくは本屋のおススメ本)、裏表紙や帯に書かれたその本のあらましが面白いのか、ベストセラーになっているかを基準にして選ん

でいます。

確かに面白い本に出会う確率は高いのですが、こうした選び方では見逃してしまう大きな感動を与えてくれる本や、ためになり参考になる本がほかにも沢山あるはず。皆さんの本の選び方や、読んで面白かった本などがあれば教えて頂きたいと思います。

読書とは不思議なもので、好きなジャンルのベストセラー小説でも、読み始めて2〜3ページで飽きてしまうこともあれば、読みふけているうちに気がついたら夜明けになっていたこともあります。思い立ったが吉日とはよく言ったもので、読書の場合も読もうと思ったときに読み始めないと機を逸してしまいます。なるべく意識的に時間を作って読むようにしています。皆さんも読みたい本があれば、いつ読むか、「今でしょう」。(中川鉄工所社長)

われわれ鉄構業界も最近においては、全国的に多忙になり需要に対して供給が追いつかない状況にあります。本当の意味での景気回復、増税等による一時的な回復であるかは定かではありませんが…。

また、仕事量の増大に拍車をかけるように材料単価の高騰、入手難、そして人材不足等により、製作工程に多大な影響をおよぼし、発注側にとっても甚大な影響を及ぼしているに違いありません。バブル期を思い出させるような感じがします。しかし、今回はその時代の失敗を教訓にして落ち着いた対応が必要です。工期に対して国内の生産が追い付かなくなると海外に生産の拠点を持つ企業が増えて単価の下落等が生じてしまう。そうならないためにわれわれ国内ファブは再度検討することが必要です。

[鉄工業界再建計画]

下請け業からの脱却、各種資格を保有した企業であり、全国鉄構工業協会の認定業者としてのブランド意識をもってユーザーに求められた要求に対して適正価格、適正納期を実現する信頼される企業になるべきです。

まず、各企業の長所、短所を日々再認識して検討し改善をすることが必要です。過剰な設備投資は避け人材の確保より人材育成に重点を置き、各人が責任をもって品質を確保しながら納期を守るために何が必要かを考え実行することができるような体制を確立する

ことが不可欠ではないでしょうか。

そして、ファブ間でのコミュニケーションを密にとり情報交換することにより迅速に適切な判断ができるようにすることも必要でしょう。

今年は、攻撃よりも守備を固める時期であると思います。一步下がってから少しずつではあるが確実に一步一步前進を続けることが、必要ではないでしょうか。6年後のオリンピックには、業界のみなさんで声高らかに日本を応援に行こうではありませんか。

がんばれニッポン 負けるな鉄構業界。
(吉岡工業専務)

明るい未来を期待したい



理事
Mグレード部会長
谷村 忠行

今、日本は大きなチャンスを迎えたと感じています。

長引く不況の中、国は景気対策のため国債を発行し、借金を膨らませてきました。その後、政権が代わり無駄使いの洗い出しをしました。そして現政権ではデフレ脱却のためアベノミクスが掲げられました。

とは言うものの景気の改善を実感できずにいました。でも、東京オリンピック開催が決まり雰囲気は一変しま

2014年の決意



副理事長
青年経営者委員会
幹事長
吉岡 晋吾

2020年東京でのオリンピック開催が決定してから日本全体の雰囲気が発達になり少しずつではありますがすべてにおいて上昇傾向になってきているような気がします。

管理技術者試験準備講習会

1級 171名、2級 73名が受講

講師は1級：羽石良一氏、2級：嶋徹氏

9月14日、全国一斉に実施される本試験のための鉄骨製作管理技術者試験準備講習会を開催。1級向けが東京都千代田区神田駿河台の連合会館（総評会館）で、また同2級が同区神田美土代町の住友不動産ベルサール神田で

それぞれ行われた。1級は171名、2級に73名が受講した。

講師は、鉄骨製作管理技術者1級向けが羽石良一氏（さくら設計事務所）、2級向けは嶋徹氏（戸田建設本社建築工事技術部課長）が担当し、建築法規一般、鉄骨構造、品質管理、鉄骨加工、安全管理など試験問題の概要や要点などを解説し、本番さながらに模擬試験も実施した。



した。

まさに景気回復の起爆剤となるビクニュースであり、これからインフラ整備により各業界が活気を取り戻してきます。また、消費税増税前の駆け込み需要も重なり、かつて日本が経験した高度成長期の忙しさがやってきます。今まで思うように改善されなかった経済も一度動き出せば大きく変わります。また成長を続けるネタも沢山あります。それは高度成長期に作り続けた老朽化した道路や建物などの建て替えや改修です。これらは課題とされてきましたが財源不足により遅れていました。しかし、経済が立ち直れば進めることができます。この状況が作り出せれば、再び日本は成長を続けることができることでしょう。

経済が回復して企業が利益を出し、税金を納めることにより国の借金を減らしていく。また、先送りしてきた社会保険制度も改善させる。

日本の将来を若者達が希望を持てるものにしていくことがわれわれの使命です。団塊の世代の方は成長期にがむしゃらに働きました。今の働き盛りの人達も同様に働かなければなりません。次世代に明るい日本を引き継ぐために私達は奮闘しなければならぬと考えます。(谷村製作所会長)

新年ご挨拶



理事

森 明

長いこと海釣りをしていた湾央横須賀沖から、昨年初より、釣り船の拠点の母港を湾奥の浦安に変えました。

東構協の皆様にも、何回かお誘いを差し上げ、釣りのイベントをいたしました。さすが湾奥、魚の数、種とも激減のきらいか釣果が上がらず、陸に

上がってバーベキューをする始末となることもありました。ところが秋になって出港したある日、沖から帰港してみると港近くで、無数の鳥が乱舞しその下で数隻の船が魚を取りこんでいる姿に遭遇いたしました。

その日は支度もないのでそのまま帰港して、翌朝早く胸躍らせて出港して間もなく、行きがけの駄賃と思い、引いていたルアーに、いきなり 80cm のサワラがヒットしました。それを皮切りに 50cm 近いイナダ(ブリの幼魚でワカシ>イナダ>ワラサ>ブリ)が立て続けにかり、ことの成り行きに驚嘆しました。なにしろディズニーランドの山のすぐ前の海での思いもしない釣り行でした。

イワシを追って湾口の館山、三崎沖からたどり着いたものですが、近年東京湾も綺麗になり、沢山の魚種の魚が釣れるようになったとは、喜ばしい限りです。気を良くして回を重ね、冬を迎えてからも、スズキの群れに当たったり、サバの群れに当たったり、湾奥とは思えない一年の釣り行を経験いたしました。だんだんようすが分かってきて、皆様をお誘いできることを楽しみにしています。

今年は初日の出を拝み、海に続き、本業界にも大漁旗がたなびくことを祈念しております。

(日本鉄構建設工業会長)

欲ばりな私の夢



理事

柳本 幸治

今年こそよい年でありますようにと願い、私が思う仕事に結ぶランキングを以下に書きます。

1. 東日本大震災復興のための建設工事。

2. 緊急輸送道路沿道建築物耐震化やビル、工場、倉庫、店舗、そのほか建築物などの耐震工事。

3. 消費税 8% アップによる駆け込み建築工事。

4. 2020 年の東京オリンピックによる建築工事。

5. アベノミクスの景気上昇による建築工事。

6. 円安のおかげで輸出企業の高利益による建築および設備工事。

このように建築工事なる要因が連なっている。今年は昨年前半までの不景気を追い払い、近年にはないほどの仕事量が増えています。

今こそ採算性のある高い仕事を選ぶことができる時代ではないでしょうか。

この状態でいくとバブルになるのではないかと思います。

前回のバブルは、約 30 年前の出来事でした。当時、私の会社でも年 1 回の昇給、年 2 回のボーナスは高額であり、年 2 回の社内旅行は、家族も招待で国内は 2~3 泊、または海外旅行と豪華であったのを思い出します。

今思うと夢のような時代でした。

今回は前回と同じではないと思いますが、5~6 年は続くバブルが来ることを願い、私は懐かしい昔を想いつつ、2 度目のバブルを夢見て「あーしたい、こーしたい」と、ひとり新年からニヤニヤしています。(富士工業専務)

昨年を振り返って



理事

角鹿 茂

昨年のレポート東構協でも当時の忙しい状況と期待感を述べたが、現状はその期待通りかなり忙しい状況が続い

ており、一年を通じて忙しい年であった。振り返ると昨年は円高や株安が是正されたことを皮切りに、東京オリンピックの招致決定と国内経済に明るいニュースが相次いだ。業界でも鉄骨需要が盛り上がり、それに伴い価格の底上げが進むなど、非常にいい調子で環境が上向いている。

しかしその一方で、鋼材などの材料費や人件費が先行して高騰しており、また、人手不足や地場の工務店など大手のゼネコンでいまだに認識に大きなギャップがあるなど課題は多い。特にゼネコンの認識のギャップは問題で、例えば大手であれば現状の繁忙期や材料の高騰、鉄骨単価の上昇をある程度理解しているものの、地場ではこうした情報が伝わっていないため、現状を理解しておらず、また、説明してもなかなか理解を得ないことが多い。仕事量や価格などの悩みに代わり、急速に回復することで生じる弊害が顕在化した一年だったといえる。

今年は昨年以上に忙しくなると予想している。わが社でも受注を躯体鉄骨に軸足をシフトしようと考えており、工場の改修や職人の確保など取り組むべきことは多い。

リーマン・ショック以降、昨年は採算が大きく改善する年となったが、昼夜なく仕事をこなしのが実態で、今年も同じ水準で継続できるとは思えない。今年もおそらくMグレード以上のクラスでは繁忙期が続き、仲間を手伝うことが難しくなるものと予想している。これまでの仲間を大切にしながら協力してくれる新しい仲間を探すことになるろう。昨年以上の売り上げを目標に頑張っていきたい。(角鹿鉄工社長)



進む道



理事

坂爪 幸男

世界文学の最高傑作とも称される「神曲」の詩人ダンテ。

なかなか手を出しにくいけれど、意外と説教臭さより人間臭さがでてきます。

中世ヨーロッパのキリスト教徒も死後の世界には興味があります。

ダンテ自身が主人公になり、あの世めぐりの旅をしたのが「神曲」です。

この門を過ぎんとするものは一切の希望を捨てよ、そう刻まれた門をくぐり、まずは地獄を見る。

続いて、生前の軽い罪を清めて煉獄(れんごく)、そして、光に満ちた天国へと、中世の読者をいざなう。

「この門を」とは夏目漱石が訳して短編「倫敦塔」(ロンドン)に引用し、文豪がついつい訳したくなる名文の宝庫らしい。

ちなみに元の題名の「神聖喜劇」を「神曲」と訳したのは森鷗外らしい。

生前から詩人としての名声に恵まれたダンテ。

実は本当に求めたのは政治家としての成功だったようだ。

政敵に敗れて故郷フィレンツェに追われ、各地を転々とする苦境の後、半生に書き上げたのが「神曲」だ。

亡命政治家だったダンテは「神曲」を書いて悔しい思いを晴らしていたらしい。

ペンによる復讐だ。

それでもこれほど世界的に有名になれば、素晴らしいことだと思う。

この話と重なるようなことが猪瀬都知事だ。作家として名をはせ、都知事選で最高得票を得て、オリンピック誘致を成功させ、東京電力を追い詰

め、絶好調かと思われた時、徳洲会の5000万円で、つまづいた。作家か評論家か政治家かどれが天職だったのか私には論じるつもりがないが、己に考えると進む道が自然に見えてきそうな気がする。(坂爪建鉄工業社長)

全国RJグレード部会報告



理事

杉本 豊

平素は全国R・Jグレード部会連絡会の活動にご協力をいただき、ありがとうございます。

全国RJグレード部会の最近の研修のなかでもとくに印象深かった活動は一昨年末に実施した静岡県御前崎市の浜松原発の津波対策の防潮壁建設工事の見学でした。

見学会には東京、千葉、山梨、静岡、大阪、京都、三重などの各鉄構組合RJ部会員ら計33名が参加致しました。浜岡原子力館で原子炉や防波壁の模型などを見た後、広大な敷地内をバスで発電所構内へ移動、5号機の中央制御室、原子炉建屋、そして工事建設中の防波壁なども見学しました。

浜岡原発は現在も停止状態にあるものの、緊急時を含めたさまざまな地震・津波対策が実施されており、見学当時、同施設の海岸線(全長1.6km)では基礎深さ30mの地中壁に異形鉄筋(D51)を建て込み、コンクリートを打設。その床版上に海面高さ1.8mの防波壁を構築する工事が行われていました。鋼使用量は3.6万t、コンクリート総量は5.6万m³におよぶ大規模な工事に驚きましたが、この原発保護のための防潮壁を見て、東北各地にできるであろう今後の防潮堤に興味深々な今日この頃です。

(一本木鉄工社長)

「社会保険未加入問題」について

国交省が建築業法の規則・告示改正。建設業申請、施工台帳、経審に影響

国土交通省は「建設業法施行規則の一部を改正する省令」および「建設業法第 27 条の 23 第 3 項の経営事項審査の項目および基準を定める件（告示）」について一部を改正した。建設業の健全な発展を目的に社会保険の 100% 加入を目指すというもので、建設業の許可申請や施工体制台帳、経営事項審査に関連する。ファブが発注したトビ工など現場職人にも当てはまり、ファブも無関係ではない。一部は 25 年 7 月 1 日から施行されており、同 11 月 1 日から全面施行となった。



概要としては①建設業の許可申請書の添付書類への保険加入状況の追加（規則第 4 条および様式第 20 号の 3 関係）——建設業の許可申請時に添付書類として健康保険などの加入状況を記載した書面を求める。

②施工体制台帳などの記載事項への

保険加入状況の追加（規則第 14 条の 2 および 4 関係）——特定建設業者が作成する施工体制台帳の記載事項および下請人が特定建設業者に通知すべき事項に、健康保険などの加入状況を追加。再下請人も特定建設業者へ通知する。

③経営事項審査における保険未加入企業への減点措置の厳格化（規則様式第 25 号の 11 および第 25 号の 12 ならびに告示第 1 の 4 の 1 および付録第 2 関係）——経営事項審査において、社会性（労働福祉の状況）などにかかわる評価の項目および基準を見直す。1 点目は、評価項目のうち「健康保険および厚生年金保険」を「健康保険」と「厚生年金保険」に区分し、各項目で審査する。2 点目は、「雇用保険」「健康保険」および「厚生年金保険」の各項目について、未加入の場合、それぞれ 40 点を減点する。

行政の対応としては①の場合、未加入であることが判明した企業に対して、加入指導を実施する。②の場合は営業所への立入検査によって確認するとともに、工事現場への立ち入り検査による確認も行う。また、元請企業による下請企業への指導状況の確認も実施する。指導・通報しても保険関係法令に違反する企業に対しては監督処分となる。③の場合では、雇用、健康、厚生年金の各保険について未加入企業に対する減点幅が拡大される。1 保険未加入で減点 40 点。3 保険とも未加入の場合は従来の 2 倍の 120 点の減点となる。

③は 7 月 1 日から施行されており、①②は 11 月 1 日から施行された。

ファブ業界では個々の企業で事情が異なり、①～③のいずれが影響あるかは違って来るが、自社状況に照らし合わせ、各社の対応・準備が必要となる。

事業所の形態に応じた加入すべき公的保険

■ : 事業主負担がない部分
□ : 事業主負担がある部分(元請一括加入を含む)

事業所の形態	常用労働者の数	就労形態	労働保険		社会保険		事業主負担計 (賃金等に対する比率)
			雇用保険	労災保険	医療保険 <small>(事業主負担には介護保険料を含む)</small>	年金保険	
法人 約 40 万社	1 人～	常用労働者	雇用保険 <small>(事業主負担 1.150%)</small>	元請一括加入 <small>(下請けの事業主負担なし)</small>	協会けんぽ、健康保険組合等※1 <small>(事業主負担 5.495%※2)</small>	厚生年金※3 <small>(事業主負担 8.159%)</small>	○3 保険の負担 14.804%
	—	日雇労働者	雇用保険 <small>(事業主負担 1.150% +日額 48～88 円)</small>	元請一括加入 <small>(下請けの事業主負担なし)</small>	国民健康保険又は 協会けんぽ <small>(日雇特例被保険者)※1</small> <small>(国保は事業主負担なし)</small>	国民年金 <small>(事業主負担なし)</small>	○日雇労働保険の負担 1.150%+日額 48～88 円
	—	役員等	—	特別加入 <small>(事業主負担あり)</small>	協会けんぽ、健康保険組合等※1 <small>(事業主負担 5.495%※2)</small>	厚生年金※3 <small>(事業主負担 8.159%)</small>	○2 保険+労災保険の負担 13.654%+労災保険料
個人 事業主 約 10 万者	5 人～	常用労働者	雇用保険 <small>(事業主負担 1.150%)</small>	元請一括加入 <small>(下請けの事業主負担なし)</small>	協会けんぽ、健康保険組合等※1 <small>(事業主負担 5.495%※2)</small>	厚生年金※3 <small>(事業主負担 8.159%)</small>	○3 保険の負担 14.804%
	1～4 人	常用労働者	雇用保険 <small>(事業主負担 1.150%)</small>	元請一括加入 <small>(下請けの事業主負担なし)</small>	国民健康保険 <small>(事業主負担なし)</small>	国民年金 <small>(事業主負担なし)</small>	○雇用保険の負担 1.150%
	—	日雇労働者	雇用保険 <small>(事業主負担 1.150% +日額 48～88 円)</small>	元請一括加入 <small>(下請けの事業主負担なし)</small>	国民健康保険又は 協会けんぽ <small>(日雇特例被保険者)※1</small> <small>(国保は事業主負担なし)</small>	国民年金 <small>(事業主負担なし)</small>	○日雇労働保険の負担 1.150%+日額 48～88 円
	—	事業主、 一人親方	—	特別加入 <small>(事業主負担あり)</small>	国民健康保険 <small>(事業主負担なし)</small>	国民年金 <small>(事業主負担なし)</small>	○労災保険料の負担

※1 健康保険の適用除外の承認を受けることにより、国民健康保険に加入する場合がある。(一部の国民健康保険組合については、事業主負担があるが、義務づけなし)

※2 事業主負担は、協会けんぽ東京支部の平成 23 年度保険料率(介護保険 2 号被保険者保険料率を含む。)を例として記載。

※3 「厚生年金保険」は、児童手当拠出金を含む(厚生年金基金加入員を除く)。

※国土交通省ホームページより抜粋

理事役員会報告

◆ 1月理事会◆

□ 1月16日、於・アルカディア市ヶ谷□
 発刊を予定していた会報誌『リポート東構協 第22号』について、内容の充実を図るため発刊時期を2月下旬に延期することを決めた。

第22号を1月の新年賀詞交換会に合わせて発刊する計画だったが、寄稿文の数が予定数に達しなかったことから、発刊時期を延期。16日の理事会で今後の対応を協議した結果、内容の充実を図るため、再度、寄稿文を募るとともに、来月22日の理事会で配布できるように制作工程を見直すこととした。

◆ 2月理事会◆

□ 2月22日、於・組合会議室□

定例理事会で国土交通省が推進している「建設業における社会保険未加入問題への対策」に関する講習会を実施することを決め、5月に開催する予定で準備を進めることとした。

国交省は建設業者の社会保険未加入問題の対策に乗り出しており、理事会ではこうした状況を受け、Mグレード以下のファブが普段起用している下請けの現場鍛冶工やとびの社会保険加入状況などについて意見を交換した。

それによると、ゼネコンが未加入業者を排除する動きがあり、ファブの側も対応が急がれるとの見解で一致。ただ、ゼネコンや組合員企業の間でも認識に温度差があり、とび・鍛冶などの現場工事業者への周知も十分でないのが実情。

このため、社会保険の取り扱いに関する講習会の実施を決めた。日程は5月28日の総会後に行われる研修会の時間を充てることとし、講師の選定をはじめ開催に向けた準備に取りかかる。

◆ 3月理事会◆

□ 3月22日、於・組合会議室□

理事会では来年度事業計画の予算を審議。結果的に委員会出席の場合の交通費削減など一部見直しを行うが、原則的に現状維持の事業活動を実施していく。また、地区会については組合員との意見集約や伝達機能として重要な位置付けにあるとし、理事全役員が向向「出張理事会」として年2、3回の割合で実施するとした。

さらに、教育・技術委員会は「クランプの取り扱い」をテーマとした技術講習会の開催を報告。理事会終了後には大日本塗料から「水性グリーンボーセイ」の説明が行われた。

◆ 4月理事会◆

□ 4月25日、於・組合会議室□

定例理事会で総会議案について協議し、13年度の事業計画案や収支予算案などを策定した。

新年度の事業計画案は、①組合員間の信頼構築のため、地区会と理事会を兼ねた出張理事会を開催し、全組合員に参加を呼び掛ける②次世代経営者にとって魅力ある業界とするため、現経営者と後継経営者の交流会や研修会を推進する③儀礼的な行事は自粛し、求心力を高めるための事業に絞って実施する——などを挙げている。

収支予算案を巡っては、組合員減少や事業減益で財政状況にあることから、前年に続き緊縮予算を維持。収支のさらなる引き締めを図り、第5号議案を役員報酬決定の件とし、交通費の減額を総会の審議にかける。

◆ 5月理事会◆

□ 5月28日、於・アルカディア市ヶ谷□

定例理事会で総会の式次第や役割分担を確認。このほか、全国鉄構工業協会技術委員会編『鉄骨製作工場の基準マニュアル集』の改訂(13年5月発行)を受け、説明会の開催を協議。継続審議となった。

また、Hグレードから景況報告があり、山積みは年末から来春にかけて埋まっているという。とりわけ、下期以降は「堅調な大型商業施設や物流倉庫に加え、約2年間にわたり超高層再開発案件を中心に都内だけでも20～30万㎡の需要が見込まれる」と見通す。今後は、「選別受注を通じた単価底上げが最優先課題。業界一丸となって採算の改善に努めていく」構えだ。



◆ 6月理事会◆

□ 6月19日、於・組合会議室□

定例理事会で東京、千葉、神奈川の鉄構組合による「東京湾岸1都2県鉄構組合合同事業推進会議(仮称)」(通称=東京ベイ3)の立ち上げを報告、9月から活動を開始する予定だ。

東京ベイ3は次世代に安定した経営を引き継ぐため、安値受注回避に向けた共同受注の推進や災害時の緊急対応などで1都2県共同の協力体制を敷くことを目的に結成。飯田理事長が発案し、各県組合に参加を呼びかけて実現した。

飯田理事長は、「首都圏は全国のアブの激しい受注競争で単価が低迷し、安値受注を回避すべく隣県と共同歩調をとる必要がある。また、巨大地震の発生確率が高まり、地震発生時の緊急対応策を検討しておかねばならない」と説明する。

発足集会は9月13日に各都県から5名程度を集め、東構協組合会議室で開催。集会終了後に交流会も実施する予定だ。

◆ 7月理事会◆

□ 7月 18 日、於・組合会議室□

理事会では、対外的に組合への加入促進を踏まえて、全体的に組合運営費の軽減を目指して本格的な検討を次回、9月理事会から開始することを決めた。また、9月理事会は東地区会との合同理事会とし、組合員の意見を理事会に反映させていくことにしている。

また、地元の J S C A 代表との交流、女子部会設立、後継経営者育成研修など関東支部内の鉄構組合活動の報告に飯田理事長は「とくに、構造設計者との交流は大切。技術的なテーマで意見を交わし、互いに得られるメリットは計り知れないものがある。柔軟な発想を持つ青年経営者委員会にぜひ中心となって活動を具体化してほしい」との意向を示した。

◆ 9月理事会◆

□ 9月 20 日、於・すみだ産業会館□

組合活動の拡充を目指して、組合員の意見を反映し、賛助会員を含めた情報交換を活発にする狙いから理事会を地区会と合同で行う合同交流会を開催。今回が初めての試みとなる。交流会には理事役員、東地区組合員、賛助会員ら計 25 名が参集した。

理事会では会員名簿について審議。また、継続審議となっていた会費と入会金の見直しについて協議した。

引き続き、開催された合同交流会には東地区会組合員や賛助会員らが参

加。職人育成、公共工事の見積もり、社会保険未加入業、専門業者の不足と外国人労働者への対応、水性塗料のコストや仕様書での取り扱いなど幅広いテーマで情報交換を行った。



◆ 10月理事会◆

□ 10月 22 日、於・組合会議室□

定例理事会で年会費の見直しを協議。耐震補強技術指導料の廃止に加え、全構協からの割り戻し金の減額や消費税の影響など、収入減と支出増により、赤字化が避けられない見通し。「組合運営を維持するため、収入源の確保が必要」として会費の見直しを協議した。

結果、Hグレード 75 万円（従来比 11・9%増）、Mグレード 39 万円（同 12・0%増）、Rグレード 20 万円（同 11・9%増）、未認定 8 万円（同 11・1%増）とする意見でまとまった。開始時期は、1年間の猶予期間を設けた上で、15年度から実施することとした。今回取りまとめた意見は、総会に議案として上程する。

◆ 11月理事会◆

□ 11月 19 日、於・組合会議室□

理事会で審議事項の「社会保険未加入問題に伴う統一標準見積書」説明会の実施を協議。その結果、12月 16 日の開催を決め、統一標準見積書の周知を図ることにした。講師は経営近代化委員会の鈴木貴久委員長（那須ストラクチャー工業社長）が担当。当日はMグレード部会、理事会も開催。

また、今治造船（本社・愛媛県今治市）への研修旅行について審議。同研修は東構塾の卒業旅行として、すでに来年 3 月 14 日の実施が決まっており、最終的に参加人数の関係から有志の参加となった。

◆ 12月理事会◆

□ 12月 16 日、於・八丁堀区民会館□

理事会では、飯田理事長が発起人となり、9月に設立した東京湾岸 3 都県鉄構組合合同戦略会議（略称＝東京ベイ 3）に関して、災害協力体制などを盛り込んだ陳情文作成や事業計画、定期的な会合を通じて活動を推進していく方針を明らかにした。

また、官公需適格組合としての協同受注事業を模索、その責任体制や受注金額の透明性、客先への品質の担保などについて協議。さらに東京鉄構 3 団体研修旅行の幹事組合（事務局）となり、その時期と研修先を審議。結果、4月実施とし、箱根方面と決めたが、最終調整について今後、事務局で詰めていくことにした。

平成 25 年度通常総会開く

次世代見据え、基盤を整備

5月 28 日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で第 27 回通常総会を開いた。当日は会計監事の補充選挙が行われ、中込千秋・中込工業所社長が就任した。

飯田理事長は「行動・継続・希望の 3 K を掲げ、各種施策に取り組む。具体的には、①都政、各区に対する陳情活動の継続②東京、神奈川、千葉の 3 県連携による事業継続計画③社会保険未加入問題の講習会の実施。また、現経営者と後継経営者の交流を積極的に行う」と語った。



交流・部会事業 を積極的に推進

◆東北で合同研修会を開催 —東京鉄構関連3団体—

東京鉄構工業協同組合と鉄工建設業協同組合（理事長＝國谷七三夫・國谷製作所社長）、東京足立鉄骨工業会（会長＝金本茂・日伸鉄工建設社長）ら都内鉄構関連で構成する「東京鉄構関連3団体」は5月6～7日の両日、東北で研修旅行を実施。6日は宮城県気仙沼の大島で、地元ファブを招き合同研修事業と懇親会を行った。

合同研修会では、宮城県鉄構工業協同組合の理事長でHグレードの北斗（本社・宮城県気仙沼市、武田孝志社長）の武田社長と同社工務部の熊谷司部長を招き、東日本大震災の概要や被害状況、復興状況、教訓などの説明を受けた。研修会后、武田社長に加え、地元ファブと、大島の民宿「アインスクりこ」で懇親会を開催。情報交換と

親睦を深めた。

翌7日は、津波により気仙沼港で座礁した漁船、「第18共徳丸」や岩手県平泉町の世界遺産「関山中尊寺」を見学した。



◆全国Mグレード部会連絡協議会総会に参加 —Mグレード部会—

全国Mグレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務）は4月4日、東京都中央区の東構協会議室で第8回通常総会を開催し、東構協・Mグレード部会（会長＝谷村忠行・谷村製作所社長）や神奈川、千葉、長野の各鉄構組合Mグレード部会代表ら計15名が参集した。

同会の事業計画として、昨年10月

に初めて実施した固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験の継続（年2回）などを承認。また、総会後のフリーディスカッションでは同資格の全国的な活動展開に伴い、取得のメリットや認知度をさらに高めるための方策について活発に意見を交換した。

◆総会で活発な行動呼び掛ける —青年経営者委員会—

青年経営者委員会（幹事長＝吉岡晋吾・吉岡工業専務）は7月20日、東京都千代田区の東京国際フォーラムで通常総会を開催。吉岡幹事長は、「足元、需要はかなり出てきており、グレードを問わず繁忙感を増している。今後は採算重視で選別受注に努める必要がある。ようやく明るい兆しが見えてきたなか、時代を担う若手は積極的に意見を述べ、活発に行動してもらいたい」とあいさつした。

当日はすべての議案を全会一致で承認。このうち13年度事業計画では「構造設計者との意見交換会」などを挙げている。

東 構 塾

新日鉄住金・君津製鉄所を見学 製鉄技術の粋を学ぶ

「東構塾」は7月17日、第4期第4回目の授業として新日鉄住金・君津製鉄所（千葉県君津市君津）の見学会を実施。世界最大級の第4高炉のほか、H形鋼や薄板の圧延工場を見て回った。

見学会に参加した塾生ら一行13名は君津製鉄所の概要などについて説明を受けた後、所内の製鉄、製鋼、熱間圧延の各エリアを見学した。

参加者は、「第4高炉の迫力が圧巻。また、われわれが日常的に扱っている

H形鋼の生産量が全体の1割にも満たないことに驚くとともに、さまざまな用途のある鉄の奥深さを学んだ」と感想を語った。



岸部直喜氏が特別講話 第4期第5回「東構塾」を開催

第4期第5回目の講義が9月28日、東京都中央区の組合会議室で行われ、岸部直喜・岸本建設工業社長・神奈川

県鉄構業協同組合理事長（岸本建設工業社長）が特別講師となり、自らのファブ経営の在り方を語った。

岸部理事長は経営者の役割として①企業の存続②自身の健康維持③後継者の育成の3点を挙げ、「いつの時代もいい情報を制する者が生き残る」と語った。

当日はこのほか、羽石塾長が建築鉄骨を巡る日本建築学会の最新動向を紹介。その中で改定作業が進められている『鉄骨精度測定指針』を説明した。



東京湾岸 3 都県合同戦略会議（略称＝東京ベイ 3） －東京・千葉・神奈川が参画－

東京鉄構工業協同組合、協同組合千葉県鉄骨工業会（理事長＝鈴木正一郎・鈴木鉄興社長）、神奈川県鉄構業協同組合（理事長＝岸部直喜・岸本建設工業社長）は9月26日、東構協組合事務所で東京湾岸3都県鉄構組合合同戦略会議（略称＝東京ベイ3）の発足集会を開いた。同会議は次世代に引き継ぐための安定した基盤作りを目的に結成。各組合から正副会長と若手幹部ら計12名が参集し、活動のテーマ

や方向性を検討した。

協議の結果、第一の活動テーマとして「公共工事で、元請業者に対し地元業者を優先的に採用または選考するよう要望する陳情の推進」を掲げ、また、「成果を得るために行政とのパイプを太くしておく必要がある」とし、「減災事業や災害緊急対応への協力を打診する」ことを第二のテーマとした。

加えて、「人材の確保・育成」を検討するとし、今後、2カ月に一度をめぐりに定例会を開く。



地区会員名簿

東地区 (22社) 地区長 富士工業 (株) 柳本 幸治

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー工業 株式会社	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	三進建鉄 有限会社	R
2	株式会社 アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	中央ビルト工業 株式会社	R	19	株式会社 コイワ	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	鈴木鉄工建設 株式会社	R	20	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	有限会社 高市工業	R	21	株式会社 奥村鉄構	未
6	吉岡工業 株式会社	M	14	株式会社 角鹿鉄工	R	22	有限会社 矢萩鉄工	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 利根川鐵工所	R			
8	富士工業 株式会社	M	16	林鉄工 株式会社	R			

中地区 (12社) 地区長 (有) 金谷鉄工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工 株式会社	M	5	有限会社 修和鉄工	M	9	小久保鉄工 株式会社	R
2	松田鋼業 株式会社	M	6	井上鉄工 株式会社	M	10	有限会社 大橋鉄工所	未
3	東京建鉄 株式会社	M	7	株式会社 三佑鉄工	M	11	株式会社 帝都建工	未
4	株式会社 鎌建工業	M	8	有限会社 金谷鉄工所	M	12	株式会社 テッコー	未

西地区 (19社) 地区長 (有) 坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	8	有限会社 坂爪建鉄工業	M	15	有限会社 山上建設工業	R
2	川岸工業 株式会社	H	9	有限会社 天野鉄工所	R	16	株式会社 小室鉄建	R
3	株式会社 矢嶋	H	10	株式会社 一本木鉄工	R	17	株式会社 高水鐵工	R
4	小島工業 株式会社	M	11	株式会社 酒多鉄工所	R	18	有限会社 藤本鉄工所	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	12	島崎工業 株式会社	R	19	株式会社 敏鉄工	未
6	井戸鉄建 株式会社	M	13	有限会社 中央製作所	R			
7	株式会社 かしや建設工業	M	14	株式会社 河村鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲	代表取締役	高圧ガス、溶材 機械、工具
				honbu@fujimikougyo.co.jp		渡辺 正	次長	
幹事	(株)アマダマシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本 文夫	副ブロック長	パッドソ用アレード*
幹事	大同生命保険(株)首都圏地区営業所	103-0027	東京都中央区日本橋2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021	03-3667-8022	緒方 淳	営業推進部長	生命保険 共済保険
幹事	大日本塗料(株)東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	成田 哲郎	所長	全構指定塗料 錆止め塗料
				isii-ji@star.dnt.co.jp		石井 順一	主任	
会計	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村 弘田郎	代表取締役	切り板 孔あけ
				ntk@viola.ocn.ne.jp		中村 弘美	常務取締役	
監査	ダイニッカ(株)東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	藤本 恵三	支店長	全構指定塗料 錆止め塗料
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	高橋 亨	代表取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株)南流山事業所	272-0163	千葉県流山市南流山3-10-7	04-7157-7735	04-7157-8835	小西 隆夫	事業部長	建築金物製造販売
				t.konishi@sanko-techno.co.jp		中村 正孝	係長	
	(株)昭和塗料商会東京営業所	101-0051	東京都千代田区神田神保町2-48 3510ビルFA室	03-3265-8951	03-3262-4570	伊東 勝美	所長	塗料販売
				showa-toryo-@k2.dion.ne.jp		渡辺 高紳	課長	
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	星野 傳弘	代表取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
						北嶋 重司	専務取締役	
	大陽日酸ガス&ウェルディング機関東支社	192-0032	東京都八王子市石川町2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村 正二	代表取締役	高圧ガス
				Kunio.Otake@tn-sanso.co.jp		大竹 邦雄	主任	
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071	03-3356-9354	遠藤 裕二	代表取締役	情報システム総合プランナー NTTコミュニケーションズ次代理店
				stud@yu-shu.co.jp		岡部 直樹	課長	
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231	04-2998-0570	本橋 孝義	代表取締役	ベースパック ハイベース
				tokoshi-odaka@sand.ocn.ne.jp		小高 進一	課長	
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
				noc-t@nomura-s.co.jp		小林 映喜	所長	
	フルサト工業(株)神奈川営業所	242-0025	神奈川県大和市代官3-1-2	046-267-5424	046-268-1051	宇佐美 雅章	所長	鉄骨副資材 ボルト
				f0441@furusato.co.jp				
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑 守弘	代表取締役	鋳鋼板専門 鋼板加工
				maruwa@checkerplate.co.jp		阿部 孝典	課長	
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島 隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム 製造販売
				misuz-film-l@tokyo.email.ne.jp		佐藤 智輝	課長代理	
	有修溶工(株)	273-0018	千葉県船橋市栄町2-6-7 東京ブリック機材センター内	047-433-2301	047-410-0575	千島 宏吉	代表取締役	スタッド溶接工事 材料販売
				stud@yu-shu.co.jp		滝沢 健一	工事部次長	

編集後記

永く続いたリーマンショック後の日本経済も、やっと明るい光が射し改善しつつあります。会員のみなさんは仕事に大変多忙な思いをされていると思います。

鉄骨の価格も、ひところの人件費も出ない価格で取引されていた状況から大きく変わって好転しているようです。

「歴史は繰り返す」という諺があります。まさに現在の状況が当てはまります。

'90年のバブル崩壊の少し前、鉄骨立て方検査で現場に行ったとき、GCの現場監督が私に「トン36万円でもなか

なか鉄骨加工を受けてくれるところがない…」と嘆いていたこと耳にしました。事実あの頃はどこのファブも山積一杯で単価が急激に上昇していたのでしょう。これも市場の原理でいかし方ないことなのかもしれません。

その後、バブルが崩壊し日本経済も失われた20年と言われる時期に入り状況は大きく変わってきました。GCの現場監督は「バブルの時の仇をとってやる!」と叫び、仕事量が大きく減った状況の中で鉄骨単価を大幅に下げて発注をしてきました。

その結果、材料費や人件費も出ない赤字受注が続き、廃業や倒産など業界にとってネガティブな状況が永く続いてきました。原価を割った価格の受注に対して、役所もGCに対し適正価格の受注を指導せざるを得ない状況になった

ほどです。

しかし、アベノミクス、東京五輪の開催決定など日本経済の状況も好転しミニバブルと言われる状況になってきました。歴史はまた振り出しに戻りつつあります。こんな状況な時こそ業界を束ねる全構協執行部の役割が大きいと言わざるを得ません。

これまでのマイナス分を取り戻すだけにエネルギーをそそぐのではなく、国土強靱化を唱える国土交通省、経産省また発注者であるGCの団体とともに受注状況が好転している今、持続可能な業界にするために「制度設計」に取り組むべきです。そのためには公正取引委員会の勧告など恐れず会長自らその先頭に立つべきです。

(事務局長 加藤哲夫)